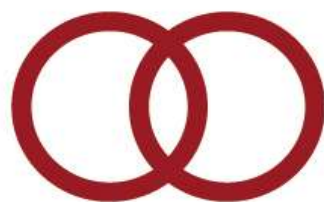


2023年度 環境経営レポート

Environmental Management Report FY2023

(対象期間 2023年1月1日～2023年12月31日)



河井工器株式会社

Kawai Kouki Inc.

作成日： 2024年2月15日

目 次

項 目	ページ
ごあいさつ	3
環境経営方針	3
組織の概要	4
事業・製品の紹介	4
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	5
主な環境負荷の実績	6
環境経営目標及びその実績	6
環境経営計画の取組結果とその評価	7～10
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無	11
緊急事態対応訓練	11
代表者による全体の評価と見直し・指示	12
これまでの環境活動の紹介	12



□ごあいさつ

平素は当社の事業活動に多大なるご支援、ご理解を賜り厚く御礼申し上げます。

当社は創業以来70年以上にわたり「すべての人とのつながりを大切にする」を理念として掲げ、当社の技術を以て広く社会に貢献することを目指し事業展開しております。

最近ではデジタル技術を始めとした技術革新が進む一方で、世界中で多くの不安定要素も多く顕在化しております。新たな社会構造への大きな転換期を迎え、複雑で困難な時代であるからこそ、改めて当社の原点である企業理念に立ち返り、社員一人ひとりが「強い想いをを持った技術人」として活躍することが重要と考えます。

当社は豊かで調和のとれた社会実現に向けた持続的成長を目指す一員として、目標達成に向けて全社一丸となって取り組んでまいります。

今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

環境経営方針

<環境経営理念>

当社は「すべての人とのつながりを大切にする」の企業理念のもと、精密機器向け製品の製造を通じて、地球温暖化問題への取り組みや地域の環境活動に自主的・積極的に取り組みます。

お客様に喜んでいただける製品を効率よく、無駄なく、タイムリーにお客様に提供することが当社の一番の環境対策と考えて、従業員一丸となって継続的に改善活動に取り組んでまいります。

<環境保全への行動指針>

- 1 . 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
- 2 . 創意工夫による省エネルギーにより二酸化炭素排出量の削減に努めます。
- 3 . 廃棄物の削減に努めます。
- 4 . 適正な利用により水使用量の削減に努めます。
- 5 . 化学物質の適正管理に努めます。
- 6 . 環境に配慮した製品をお客様にお届けします。
- 7 . 常に当事者意識と目的を持ち、主体的に行動します
- 8 . 地域や関係団体の環境活動に積極的に参加します。

制定日： 2019年11月25日

代表取締役 河井 三代人

□組織の概要

更新日： 2024年1月17日

(1) 名称及び代表者名

河井工器株式会社
代表取締役 河井 三代人

(2) 所在地

本社・工場 〒399-4301 長野県上伊那郡宮田村 3 3 4 6

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者	経営企画室	河井 司	TEL：0265 - 85 - 3088
担当者	管理課	伊藤 和枝	TEL：0265 - 85 - 3088

(4) 事業内容

光学機器や医療機器向け等の金属精密部品の製造

(5) 事業の規模

売上高 29,500 万円 (2022年度実績)

		本社・工場
従業員	名	23 名
延べ床面積	m ²	1410.05 m ²

(6) 事業年度 1 月 1 日 ～ 12 月 31 日

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名： 河井工器株式会社
対象事業所： 本社・工場

活動： 光学機器や医療機器向け等の金属精密部品の製造

□事業や製品（商品）の紹介

当社はカメラ用の光学レンズ部品やプロジェクタ部品、医療機器部品などの製造を行う超精密金属切削加工メーカーです。精密機器の部品製造には旋盤、マシニング加工等の高度な技術と感性が求められます。お客様のあらゆるご要望にお応えするために充実した設備を整え、 μm (1/1000mm：マイクロメートル) 単位で加工を行っており、小ロット・多品種生産にも対応し、高品質な製品の生産に取り組んでいます。

<製造工程>

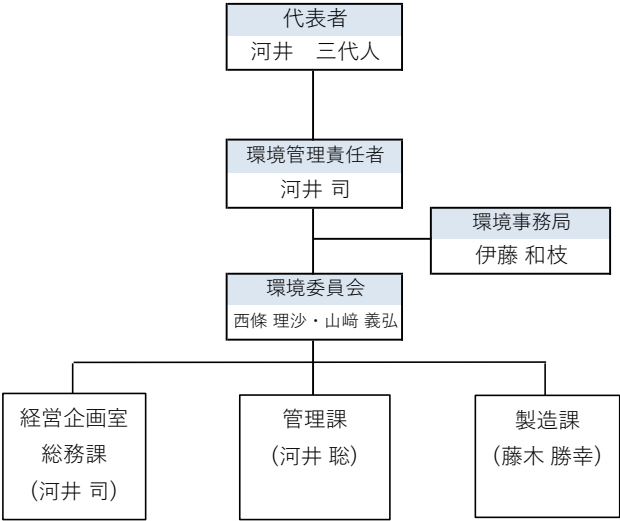


<品質検査>



<製品>





	役割・責任・権限
代表者（社長）	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し、指示 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、環境委員会の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ・環境経営目標・環境経営計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開（事務所に備え付けと地域事務局への送付）
環境委員会	・環境経営計画の審議 ・環境活動実績の確認・評価
部門長	・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 ・試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	・環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

□主な環境負荷の実績

項 目	単位	2020年	2021年	2022年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	101,856	107,338	95,321
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	kg	588	542	408
産業廃棄物排出量	kg	24,740	33,960	25,810
水使用量	m ³	400	423	441

※二酸化炭素排出係数 0.433 kg-CO₂/kWh 電力会社の調整後の係数

□環境経営目標及びその実績

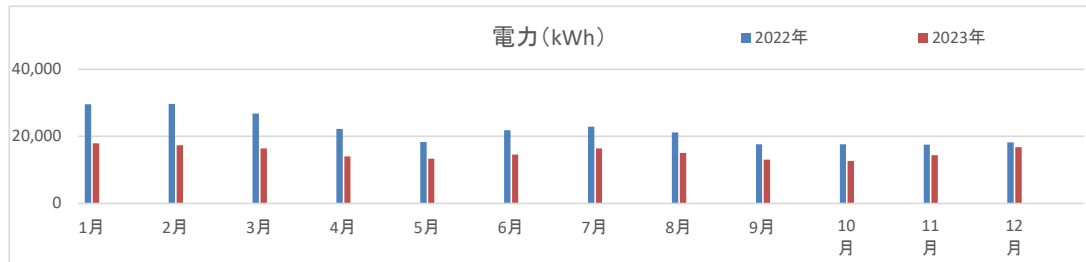
年 度		基準値	2022年		評 価	2023年	2024年
項 目		(基準年)	(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	115,281	114,129	78,671	○	112,976	111,823
	基準年度比	2022年	99%	68%		98%	97%
灯油による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	8,715	8,628	4,980	○	8,541	8,454
	基準年度比	2022年	99%	57%		98%	97%
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	11,276	11,163	11,670	×	11,050	10,938
	基準年度比	2022年	99%	103%		98%	97%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	135,272	133,920	95,321		132,567	131,214
一般廃棄物の削減	kg	559	553	408	○	548	542
	基準年度比	2022年	99%	73%		98%	97%
廃油の削減	kg	5,600	5,544	5,600	×	5,488	5,432
	基準年度比	2022年	99%	100%		0.98	0.97
水道水の削減	m ³	465	460	441	○	456	451
	基準年度比	2022年	99%	95%		98%	97%
洗浄剤使用量削減	kg	400	396	600	×	392	388
	基準年度比	2021年	99%	150%		98%	97%
環境に配慮した生産活動	行動目標（次項による）						

□環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

数値目標：○達成 ×未達成

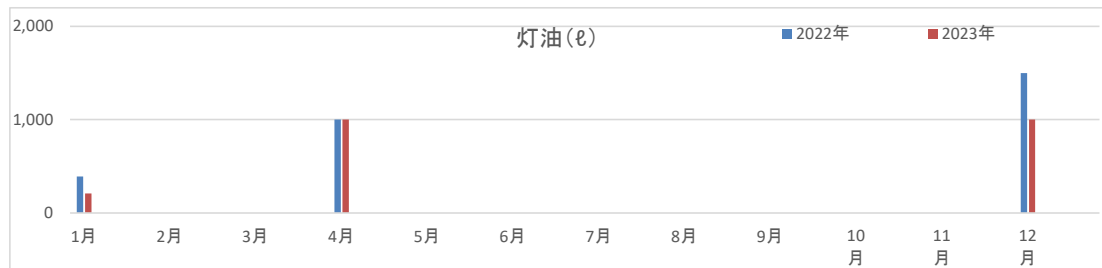
活動：◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	【評価】2023年度の電力消費量の合計は181,688 kWhであり、基準年（昨年）比68.2%であった。受注減による稼働時間の縮小が大きな要因ではあるが、工場内の温度管理の為にカーテン設置等による当期の暖房使用抑制効果や、社内での省エネ対策の成果も出ていると考えられる。 【次年度の取組】次年度も活動を継続する。
・空調温度の適正化（冷房28℃ 暖房20℃）	○	
・不要照明の消灯	○	
・生産工程の見直しによる節電、新機械導入	○	
・空気圧縮機のエア洩れ点検	○	



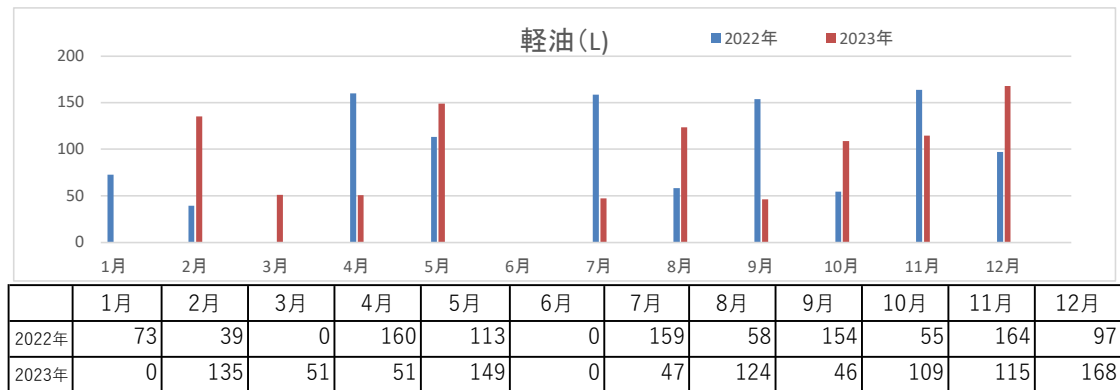
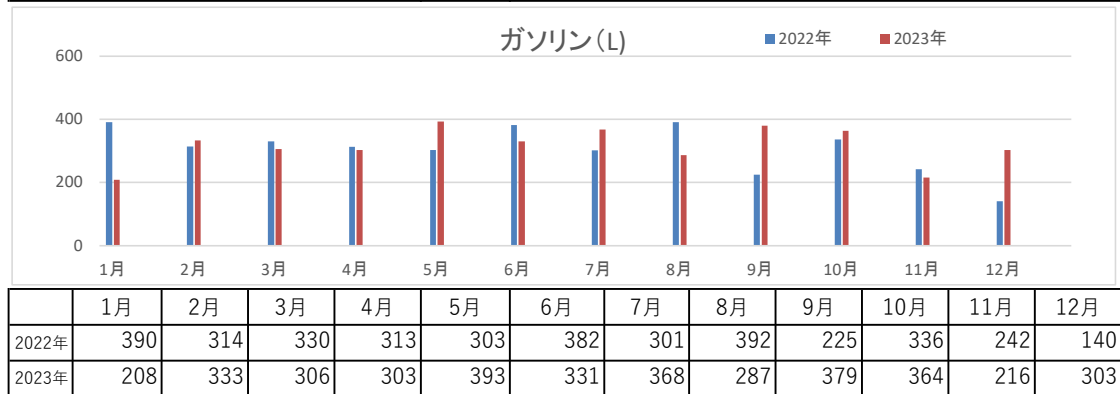
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2022年	29,521	29,595	26,812	22,217	18,301	21,805	22,822	21,141	17,636	17,636	17,562	18,142
2023年	17,923	17,347	16,353	13,992	13,388	14,573	16,334	15,053	12,989	12,633	14,379	16,724

灯油による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	【評価】2023年度の灯油使用量は累計で基準年（昨年度）比で57%であった。工場全体の稼働時間の効率化などが、使用量の削減に繋がっている。 【次年度の取組】次年度も活動を継続する。
・暖房の使用適正化	○	

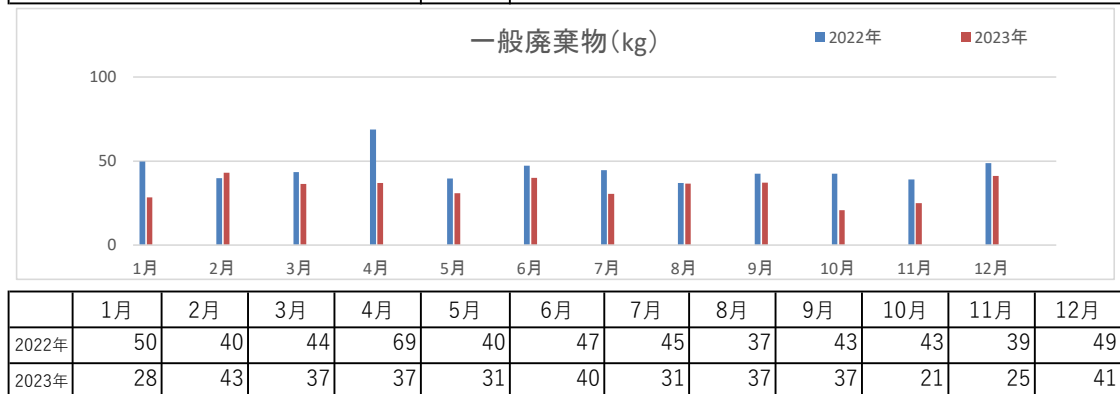


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2022年	390	0	0	1,000	0	0	0	0	0	0	0	1,500
2023年	208	0	0	1,000	0	0	0	0	0	0	0	1,000

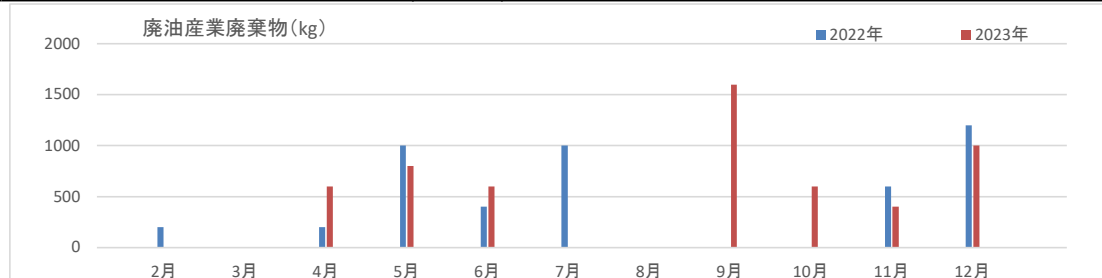
自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	【評価】2023年度における自動車燃料使用によるCO²排出量推計は、基準年（昨年）比で103.5%で、目標値を達成できなかった。第2四半期および第4四半期における営業活動や輸送業務が増え、車の使用頻度や走行距離が増加したことが大きな要因である。 【次年度の取組】次年度も活動を継続する。
・効率的なルートでの移動	△	
・エリア別営業活動の見直し	△	
・納品業務の効率化	×	



一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	【評価】2023年度における一般廃棄物の排出量合計は、基準年（昨年）比で、72.9%であり、目標値を大幅に上回ることが出来た。ごみの削減等の社内施策が社員へ浸透している事の成果であると思われる。 【次年度の取組】次年度も活動を継続する。
・排出量のモニタリング	○	
・分別の徹底	○	
・帳票見直しによる印刷物の削減	○	

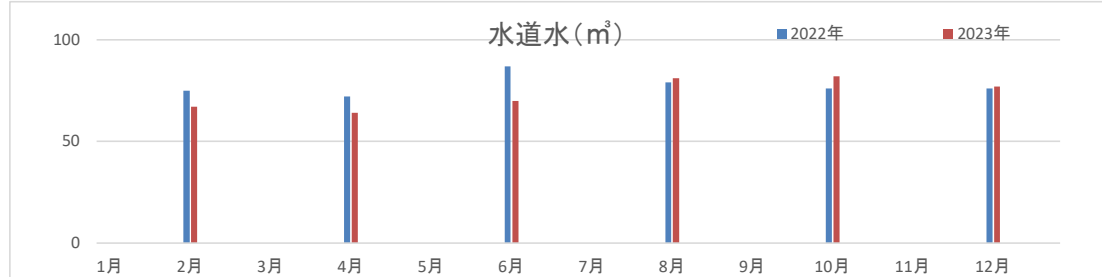


廃油の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	【評価】2023年度における切削油の廃棄量の累計は、基準年（昨年）比で100%であった。機械の稼働自体は減少したものの、切削油については機械に対し一定量を使用する必要があるため、具体的な削減策を検討し、確実に実行していく必要がある。 【次年度の取組】次年度も活動を継続する。
・切削油の効率的な使用	△	
・機械稼働状況と使用量のチェック	△	



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2022年	600	200	0	200	1,000	400	1,000	0	0	0	600	1,200
2023年	0	0	0	600	800	600	0	0	1,600	600	400	1,000

水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	【評価】2023年度における水道水使用量累計は、基準年（昨年）比で、94.8%で、削減目標値を達成することができた。社内でも継続して節水の取り組みを行っており、社員にも定着してきている。 【次年度の取組】次年度も活動を継続する。
・節水シールの貼り付けとポスター掲示	○	
・水道設備の点検(隔月実施)	○	

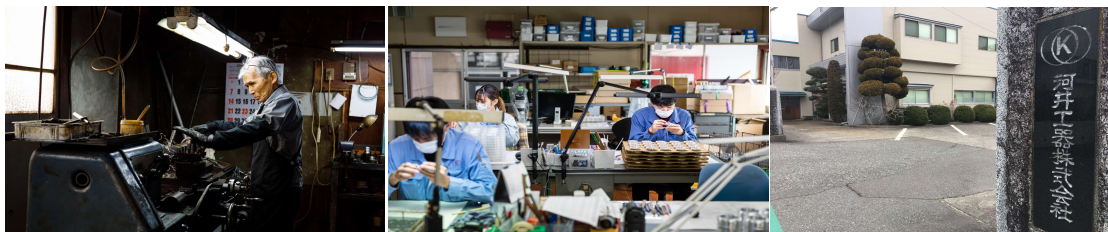


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2022年	0	75	0	72	0	87	0	79	0	76	0	76
2023年		67		64		70		81		82		77

洗浄剤使用量削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	【評価】 2023年度における洗浄剤の使用量累計は、基準年（昨年）比8倍程度で、大幅に上回っている。指定有害物質を含む旧来の洗浄剤を、代替物へ転換しているためである。 【次年度の取組】 次年度も活動を継続する。
・有害性物質の表示の徹底	○	
・容器の蓋の徹底	○	
・作業ミスによる使用量増加の抑制	○	

グリーン購入の推進	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・有害性の少ない資材の購入	○	有害性の少ない資材への転換、省エネ製品やグリーン製品の購入は全社に浸透し、継続して実行出来るようになっていく。
・省エネ性能の高い電気製品の購入	○	
・事務用品グリーン購入	○	

環境に配慮した生産活動	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・不良品低減（連絡書の徹底と改善策の検討）	○	【評価】 改善委員会を設置し、社内の効率化、諸業務の改善活動に取り組んでいる。また生産活動の可視化も推進し、特に不良品のモニタリングを強化する事で、不良率の低減と再発防止に一定の効果が確認できている。今後もこの取組を継続していく。 【次年度の取組】 次年度も活動を継続する。
・稼働率向上（生産管理システムによる最適化）	○	
・管理職会議での各週生産状況確認	○	
・改善委員会による改善推進	○	
・製品含有化学物質の適正管理	○	



□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
産業廃棄物処理法	委託基準（廃収事業者、産廃収集運搬・処分業者の許可）、保管基準、マニユフェスト交付、特別管理産業廃棄物（管理責任者の選任、帳簿作成）、産業廃棄物管理票交付等状況報告書、処理状況の把握等
水質汚濁防止法	洗浄設備
フロン排出抑制法	エアコン
化学物質排出管理促進法	工作機械、洗浄設備
労働安全衛生法	工作機械、洗浄設備
消防法	灯油タンク、指定数量未満の危険物保管

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

□外部からの環境上の苦情・要望等

- ・2022年9月に、取引先との協議の結果、品質管理マニュアルの一部改訂を実施しました。

□緊急事態対応の試行・訓練

緊急事態の想定： 火災の発生	
■実施日： 2023年9月25日（月）	■実施場所 管理棟、工場、駐車場
■参加者： 経営企画室長、管理課長、製造課長、各係長、社員4名	
■実施内容： ☒ 通報訓練 ☐ 消火訓練 ☒ 避難訓練 火災発生を想定した通報・避難訓練。発見者が社内通報、社内放送にて緊急避難の告知。避難場所である当社駐車場への非難と、管理職による点呼。消火器の確認等。	
■評価：	手順書の変更の必要性 ☐ あり ☒ なし
通報および避難訓練は滞りなく完了する事が出来た。消化設備点検も行い、問題点等は検出されなかった。	

緊急事態の想定： 油流出事故の発生	
■実施日： 2023年9月25日（月）	■実施場所 切削油保管所
■参加者： 管理課長、管理課2名、製造課2名 経営企画室長	■実施内容： ・流出事故対応、通報訓練
■評価：	手順書の変更の必要性 ☐ あり ☒ なし
油漏れ事故時の対応訓練を実施。発見から関係各署への連絡連携、緊急対応（吸油マット敷等）まで問題なく完了することが出来た。給油中中の人的ミスに起因する事が多いと考えられるため、A644ヒューマンエラー防止策の徹底を引き続き図っていく。	

□代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2024年1月30日

●全体評価

2023年度は、当社をはじめ国内製造業全般で停滞が見られ、製造量が減少しました。その結果、工場の稼働も減少したために環境負荷の低減も一部で実現できた一方、固定で使用するものについては引き続き削減目標の達成に向けた取組みが求められます。引き続き、社員の意識の変化と個別の技能向上などが顕著に見られております。当社は、更なる生産性の向上を実現し、環境経営目標の達成に取り組んでまいります。

●環境目標の達成状況

7項目の環境数値目標に対し、達成できた項目は4項目（電力・灯油・一般廃棄物・水道水）で、自動車燃料・廃油の削減・化学物質使用量の3項目は未達成でした。生産量低下に伴う工場稼働時間の減少による影響が少なからずある中で、自動車燃料や廃油等は固定的に消費する要素が強い物であることもあり、今後どのように効率化するかが課題です。また、洗浄剤については、特定化学物質の代替物質に変更を行った事が影響しておりますが、当社の環境への負荷や従業員の健康への影響を重視し、更なる改善を実行して参ります。

●環境活動に関する結果

全社で実施している5S実践活動が定着し、職場環境改善・環境負荷低減の効果が継続していると考えます。また、改善委員会による活動では、若手の自主性と実行力を養成しつつ、工程改善やノウハウ供給化、不良品抑制施策などの成果が出ています。

●環境関連法規の順守

特に自社における法規制に違反はなく、今後も順守を続けてまいります。

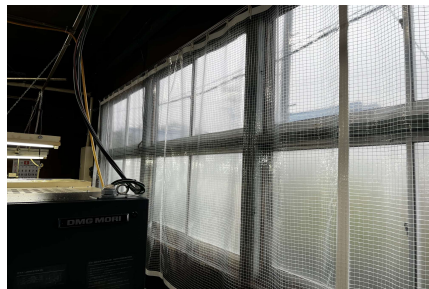
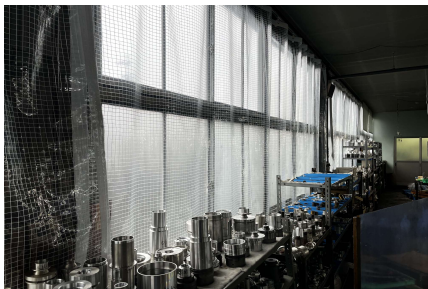
●外部からの苦情・要望等

環境経営方針	☒ 変更なし	☐ 変更あり
環境経営目標・計画	☒ 変更なし	☐ 変更あり
実施体制他	☒ 変更なし	☐ 変更あり

□これまでの環境活動の紹介

電気料金の高騰が続きます。当社で生産する金属製品は温度変化による寸法への影響を受けやすい中で、1/100～1/1000mm単位の精度を求められるため工場内の温度を常に一定に保つ必要があります。そのため当社は冷・暖房は使用電力割合が大きく、影響も増大しました。すぐに簡単にできる対策として工場内の壁にビニールカーテンを取り付けたところ、冬場の温度低下が従来に対して2～3度保つことが出来るようになり、使用電力量の削減にも結び付いています。

<工場内に設置したビニール製カーテン>



□編集後記

2023年度はエコアクション登録を受けて丸3年が経過しました。当社の社内でも、環境負荷の低減や、生産性の向上等に向けた5S活動や改善活動が定着し、社員の意識向上が進んできていると実感しています。毎年、新卒の新入社員が入社しますが、初期の研修でエコアクション21を中心とした、当社の環境経営についての取組みについて理解を深めた上で、社内の改善委員に任命され、具体的な改善活動を担ってくれています。どんなに小さなことでも、具体的に考えてまずやってみることが重要で、若手が主体的に考えて周りを巻き込みながら実行し結果を出す事で、彼らの成長にも繋がっていると実感しています。今後もこのような取り組みを意欲的に継続していければと思います。